

Main Library で

渡 辺 信

ヒゲをはやしたポスト・ドクのチャーリーは毎週金曜日になると、ドアに Library と書いたカードをはりつけていなくなってしまう。丸顔の大学院生のルイズもそうだった。十以上の会議に出席するのを何だかんだと言いながら結構生きがいにしている親分のゲーリーも毎週必ず図書館に行く。そこで週刊の Current Contents を見て、別刷請求の葉書を送ったり、コンピューターで検索して、必要な論文のコピーを申し込んでくるのだ。だから彼らに送られてくる郵便物には大型封筒がひんばんに入っていることになる。斜めに読むか、二段ごとに読むかしてその論文に目を通すと、さっさとキャビネットかくずかごにファイルする。この一連の作業が最新情報を入手し整理するやり方だった。そのため私の行っていたオハイオ州立大・動植物学ビルディングの図書館には十年程前までの雑誌しか置いていない。それより古いものは十数階の高さの Main Library の巨大な書庫に入れてしまう。

私の最もよく利用したのはゲーリーのキャビネットだった。何も図書館に行く必要はなかった。自由に出入りできる彼のオフィスのキャビネットを見れば項目別に整理されていて、勝手に見ることができるし、必要ならば

そのコピーもとってもらえた。それは私にとって宝の箱みたいなものだった。彼のファイルしている文献は専門分野よりももっと巾が広く、いくつかキャビネットがあったのにとて全部にまで手はまわらなかったけれども。

こんな訳で私は最新情報については図書館に行く必要はなかったが、そこを利用はしていたのだ。Main Library には、毎週火曜日にシカゴで発行される読売新聞が一週間分まとめて入ってくる。怪人二十一面相が世相を騒がしていた頃だった。捕まったかな？と一週間たって行ってみると、見事逃げられてしまっていたりする。一週間分の新聞はやはり読みごたえがあって、ボーとしながら、研究室に戻っていったものだ。そして、思い出してみると図書館には真面目に勉強する学生も大勢いたけれど、広いロビーの床にあぐらをかいたり、寝ながら本を読むのもおり、さらには昼寝している奴までいた。どんなに巨大な建物でも全館空調されているから、そこは学生が静かに自由にできるところなのだろう。人が自然に自分だけの時間を楽しみに来る場所として、図書館もあるのだと感じたものだった。

(教育学部・生物学助教授)

学術情報センターとの接続について

学術情報センターは、「学術情報の収集、整備及び提供並びに学術情報及び学術情報システムに関する総合的な研究及び開発」を目的として、昭和61年4月に東京大学文献情報センターを改組拡充して設置され、全国の大学をネットワークで結んで各大学に所蔵されている図書及び雑誌の目録所在情報データベースを形成することなどを当面の主な事業にしている。富山大学附属図書館は、昭和61年3月に接続し（当時の東京文学文献情報センター）、昭和61年度から利用を開始している。現在、当館を含めて約20大学がネットワークに加入し、データを送信するとともに「目録所在情報サービス」を受けており、今後とも加入が促進されている。

利用の概略は次のとおり。

1) 目録所在情報サービスには、①図書・雑誌の目録検索、②図書・雑誌の目録登録、③ILL（図書館間相互貸借）の3種類があり、センターで運用準備中のものを除いて、現在、図書・雑誌の目録検索と図書の目録登録を利用している。これらを利用することによって次のような意義や利点がある。

ア) 共同分担目録形成（オンライン・シェアード・カタログリング）

センターで購入している各国のマーク類や、他の参加館が入力した目録データをオンラインで利用して共同で目録作成を行うことにより、大学ごとに行っていた場合より目録作業が促進される。

イ) 目録の品質維持

マーク類や典拠ファイルを用いることにより、正確で詳細な書誌情報の形成、提供ができる。

ウ) 書誌・所在の検索

マーク類や形成された総合目録をオンラインで検索することにより、各国で出版されている図書や雑誌の書誌情報と他大学の所在状況を知ることができる。検索には、タイトルなどの短縮形、ISBN、タイトルや

著者名中の任意の単語、件名、出版年などによるほか、それぞれの論理積検索、キーワード検索など多様なアクセス方法がある。所在状況は、図書の場合、センターと接続している館について、雑誌の場合、学術雑誌総合目録にデータを提供しているすべての館（986館）について調査することができる。

エ) 文献複写、相互貸借のオンライン化

ILLシステムの運用が始まれば、文献複写や現物貸借の申し込み及び発送通知をオンラインで行うことが可能となる。

オ) 学術情報システムへの寄与

ネットワークを通じて富山大学の目録情報を広く学外に提供することにより、全国的学術情報流通体制の整備に寄与することになる。

2) センターとの接続形態にはケース1からケース3まであり、ケース1は端末レベルの利用で、センターから送信されてくるデータを端末に表示したり、端末からセンターへデータを登録する。ケース2は、これに加えて、作成したデータを大学のホストコンピュータの中間ファイルを介して大学のシステムにもとりこむ。ケース3は、さらに進めて中間ファイルを介さずに、大学システムとセンターシステム双方へのアクセスが可能となる。現在、ケース3の形態は実用化されておらず、当館ではケース2をとっている。

3) センターの事業内容には、目録所在情報サービスのほか、二次情報検索サービス、データベース形成の促進などがあげられており、これらについても準備が進められている。

4) 現在、検索や登録のために利用できるセンターのレコード数は次のとおり。

マーク類

洋 図 書	約 320万
和 図 書	約 60万
洋 雑 誌	約 20万
著者名典拠	約 113万

総合目録

洋図書書誌	約	5千
洋図書所蔵	約	4千
和図書書誌	約	7千
和図書所蔵	約	6千
洋雑誌書誌	約	10万
洋雑誌所蔵	約	60万
和雑誌書誌	約	4万
和雑誌所蔵	約	98万

○マーク (MARC)

各国で出版されている図書や雑誌の目録情報をコンピュータ処理可能な形にして収録したものの。JAPAN MARC (日本), TRC MARC (日

本), LC MARC (米国), UK MARC (英国) などがある。

○典拠ファイル

著作を有するすべての人名, 団体名, 会議名のリスト。生没年, 経歴などその著者を識別するための情報が付されている。旧名, 別名などから参照ができる。

以上, 学術情報センター利用の概略を述べましたが, なお, 詳細事項や検索等については学術情報係が窓口となっておりますので, お申し出下さい。

(学術情報係)

蔵 書 冊 数

昭和61年3月31日現在

分類別	和 書	洋 書	合 計
0 総 記	36,731	12,747	49,478
1 哲学・宗教	25,221	9,398	34,619
2 歴史・地理	37,718	7,544	45,262
3 社会科学	122,638	41,056	163,694
4 自然科学	54,578	56,674	111,252
5 工 学	42,977	15,846	58,823
6 産 業	22,024	4,831	26,855
7 芸術・体育	17,025	2,070	19,095
8 語 学	18,046	10,730	28,776
9 文 学	47,215	22,321	69,536
合 計	424,173	183,217	607,390

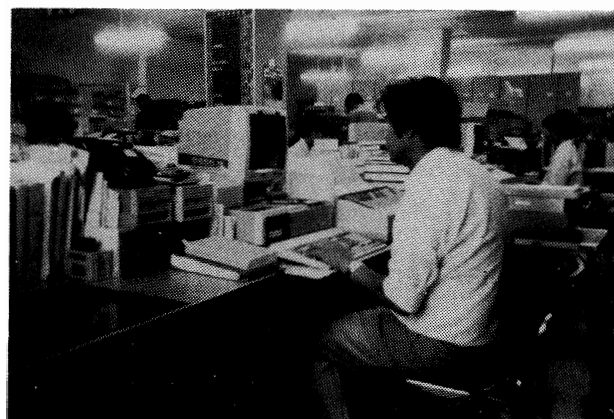


図 書 館 利 用 状 況 (昭和60年度)

区 分	入館者数	館 外 貸 出						参考業務 利用数	文 献 複 写 利 用 数			
		教 職 員		学 生		計			受 付		依 頼	
図 書 館 本 館	人 260,823	人 2,387	冊 14,544	人 14,726	冊 26,263	人 17,113	冊 40,807	件 1,105	件 3,787	枚 25,624	件 1,407	枚 11,909
工学専門図書室	—	1,286	3,959	3,573	5,322	4,859	9,281	162	—	—	180	1,341
合 計	260,823	3,673	18,503	18,299	31,585	21,972	50,088	1,267	3,787	25,624	1,587	13,250

—— 図 書 館 関 係 会 議 ——

(昭和61年4月～昭和61年9月)

第37回北信越地区国立大学図書館協議会

期 日 昭和61年4月25日～26日

場 所 金沢大学附属図書館

富山県図書館協会大学高専部会研修会

期 日 昭和61年6月11日

場 所 富山大学附属図書館

昭和61年度国立大学附属図書館事務(部課)

長会議

期 日 昭和61年5月21日

場 所 東京医科歯科大学

第33回国立大学図書館協議会総会

期 日 昭和61年6月11日～12日

場 所 東京医科歯科大学

—— 図 書 館 関 係 人 事 ——

(昭和61年4月～昭和61年9月)

採 用

61. 4. 1 小森 功(参考係)
" 村 裕子(閲覧係・工学専門
図書館)
61. 8. 1 遠藤江里子(整理係)

退 職

61. 7. 31 山橋美香(整理係)

転 任

61. 4. 1 田中大四郎(閲覧係長)
富山工業高等専門学校
学生課図書係長より
" 池田 勇
富山工業高等専門学校
学生課図書係長へ

昭和61年度商議員紹介

館 長 平田 純 事務長 高木行則

人文学部 藤本幸夫, 佐藤 進

教育学部 加瀬正二郎, 横山泰行

経済学部 今井晴夫, 竹川慎吾

理学部 鈴木正昭, 小嶋 学

工学部 笹倉寿介, 能登谷久公

教養部 永井 和, 北村潔和

経営短大委員 小倉利丸